

# 沿岸漁場細密調査事業

担当者 次長 馬場勝彦  
漁業課長 浅加信雄  
主任研究員 豊川毅

## I 調査目的

沿岸漁業振興の基礎となる漁場形成の基本的要因を解明し、漁業試験を併行するなど、人工魚礁設置の適地、増殖対策、年間操業計画に対する指標を与え、沿岸漁業構造改善事業の実施と相俟って、漁業経営の合理化に寄与する。

## II 調査内容

1. 調査場所 むつ湾全海域
2. 調査期間 昭和42年7月から昭和42年11月まで
3. 調査項目
  - A 水深、底質、海底地形、汐流、水温
  - B 既成漁場、生物相分布状況

## III 調査方法

1. 水深、海底地形  
調査計画図にもとづき、1,000 m 間隔の分画線上を航走し、魚群探知機により測定した。
2. 底質、潮流  
底質は採泥器により採取、粒度組成を観察する。潮流は簡易潮流計により、流向、流速を測定した。
3. 漁業試験  
むつ湾定置漁業転換対策事業で実施したので省略した。

## IV 調査結果

測定した水深、底質を調査図上におろし、等深線、底質図を併せて作成した。調査は深浦から傭船した嘉登丸（3.26トン、D15馬力）を使用し、調査員が乗船して実施した。

作成した調査図は色刷りでむつ湾東部及び西部の2枚（5万分の1）に印刷し、むつ湾内漁業協同組合及び水産関係団体に配付した。むつ湾内の底質はその70%が泥質で次いで砂泥、砂、岩盤、砂利の順となっており、湾の中央は最も深い所で51 m 湾口部で67 m となっている。

## V 考察

本資料は前記目的にも述べたように、次のような効用に役立とう。

1. 海海底質を把握することにより貝藻類養殖適地ならびに適地面積を把握できることによって、計画的な養殖経営の合理化が図られる。
2. 水深、底質に対応する各種漁具漁法の適正化を促進し、漁場までのコース決定を容易にする。  
底質と生物相との相関性を究明し、今後の漁業計画確立の資とする。

# 水産土木工事の設計

4. 水産土木工事を実施するにあたり、場所及び工法の決定に目途が与えられる。